



山形県 鶴岡遊技業協同組合
「地域社会への感謝を込めた
福祉車両の贈呈」事業



鶴岡遊技業協同組合 理事長
金烘鍾さん

地域の福祉を担う「足」を
20年以上贈り続けて

さまざまな福祉活動シーンで活躍する車両

1988年といえば、地方がクローズアップされた年である。当時の首相、竹下登氏が「ふるさとづくり」をキャッチフレーズに掲げてふるさと創生金を交付し、地方博があちこちで開かれ、特産品づくりをめざす一村一品運動などが注目された。

この年、山形県鶴岡市に1台の車が寄贈された。高齢者福祉の一環として、お年寄りの送迎サービスに使用されることになる車だ。贈ったのは、山形県の鶴岡・田川地区のパチンコ店で構成される鶴岡遊技業協同組合（現在、加盟14店舗）。以来、鶴岡遊協では、地域の社会福祉活動に広く役立ててもらおうと、同地区へ軽自動車、ワゴン車、マイクロバスなどを贈り続けている。すでに20年以上続けられている寄贈事業だが、昨年までに贈った車の総台数は48台。総額は約7,000万円にのぼっている。

地域貢献への第一歩となったのは、87年に児童遊園地にすべり台や児童図書を贈ったことだった。福祉活動用車両の寄贈は、その翌年から。これらの車両は具体的には、児童福祉施設利用者の送迎、保育園児の送迎、介護予防推進事業や障害者社会参加事業などに活用されている。いわば地域の福祉活動にとって欠かせない足であり、まさに足元から地域の福祉活動を支えているということになる。毎年のように寄贈し続けているため、地元での評判も高い。

ふるさとの福祉レベル向上に着実な貢献

昨年は、3月に、「寄贈車両贈呈セレモニー」が鶴岡市役所本庁舎正面玄関前で行われた。セレモニーでは、鶴岡遊協の金烘鍾理事長から鶴岡市の富塚市長にマスコットキーの贈呈が行われ、その後、車両の配置先の代表者によるテープカットが行われた。昨年の車両は、車椅子対応型軽自動車が「鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院デイケア送迎用」として、軽自動車2台は「鶴岡市社会福祉協議会地域包括支援センター」と「子ども



市役所前で行われた贈呈式の模様



寄贈された福祉車両



福祉車両の贈呈活動を山形新聞が報道

家庭支援センター」にそれぞれ配置された。

セレモニーでは、金理事長が、「市の福祉に役立ててもらえればうれしい。今後も、この活動を継続していく」とあいさつ。それに応じて富塚市長からは、「長年にわたり、福祉関係の車両をいただき、感謝する。有効に使わせてもらう」という謝辞があった。この模様は、地元紙の『庄内日報』や『山形新聞』に掲載されるため、年を追うごとに地域住民の間でも認知度が高くなってきている。

寄贈に当っては、理事長が市役所福祉課を訪問し、どこでどのような車両を必要としているのか事前に調査することで、本当に必要なものを、本当に必要とされる場所に配置することが可能になっている。地域の福祉関係者や部署とのこうした細かい連携が、より効果の高い寄

贈事業につながっているわけで、そうすることが福祉サービスを必要とする方々に、より質の高いサービスを提供することにもなる。

1988年に小さな一歩として始まった福祉活動車両の贈呈だが、継続することで、それは地域にとって欠かせない活動となった。こうした一歩一歩の着実な積み重ねこそが、これからの地域貢献活動には求められているのだと思う。「地域から支持されていることへの感謝を込めて、地域の皆様のための社会貢献活動を継続していく」という活動こそが、本当の意味での「ふるさとづくり」につながっていくのではないだろうか。鶴岡遊協の福祉活動用車両の継続的な贈呈事業は、それを象徴する格好の例である。